

令和7年  
2025年

6月19日  
木曜日

第11736号

# 食肉速報

— THE DAILY MEAT NEWS —

昭和51年5月19日  
第三種郵便物認可

購読料(前納)  
年間 82,080円  
(税込み)  
6か月 42,120円  
(税込み)

本紙は関連企業・団体との  
タイアップ企画記事を含みます

【発行所】株式会社食肉通信社  
https://www.shokuniku.co.jp/

東京支社  
〒101-0021 東京都千代田区外神田2-14-10  
TEL03-6206-0929 FAX03-6206-0928

大阪本社  
〒550-0005 大阪市西区西本町3-1-48  
TEL06-6538-5505 FAX06-6538-5510

九州支局  
〒812-0029 福岡市博多区古門戸町3-12  
TEL092-271-7816 FAX092-291-2995



▶ 令和7年の農業技術の基本指針、早期出荷など多様な肥育形態等検討 …… P2

▶ 日本飼料工業会が通常総会、新会長に宮内和博氏選任 …… P3

▶ [肉類通関速報・5月] 計26万2441tで前年比3・3%減 …… P3

▶ 6月の食品価格動向調査、国産牛肉は13円安、輸入牛肉は前月並み …… P4

▶ 日本ハムが第9回食育活動表彰で農水大臣賞受賞 …… P4

▶ 丸大食品がJOCおよびJPCとオフィシャルサポーターシップ契約を締結 …… P5

▶ 農畜産業振興機構、食肉販売動向調査⑤「量販店と専門店の実績」 …… P5

▶ 神戸食肉青年会が月例会、岸本七江会長が退任し竹中慶子副会長が会長就任内定 …… P6

▶ 杉本本店、大阪・関西万博「宴」に期間限定で登場 …… P6

▶ 中国・上海で国際肉類大会開催、業界関係者が食肉輸出状況など講演 …… P7

▶ [資料] 都道府県別枝肉生産量(令和7年4月) …… P8~9

▶ [東京・大阪枝肉相場、全国と畜頭数] 18日 …… P10

▶ [各地の豚枝肉、豚部分肉、食鳥相場] 18日 …… P11

## 注目のヘッドライン

令和7年の農業技術の基本指針、早期出荷など多様な肥育形態等検討

…詳細はP2

[肉類通関速報・5月] 計26万2441tで前年比3・3%減

財務省が18日に公表した5月の貿易統計速報によると、肉類の輸入通関量は合計26万2441tと前年同月を下回った。

…詳細はP3

## 職人の技を次世代へ

新刊

改訂新版

牛枝肉・部分肉の  
分割と商品化

職人の技

カラー写真

丁寧な解説

B5判/216頁

定価 5,500円(税込送料別)

食肉通信社

## 令和7年の農業技術の基本指針、早期出荷など多様な肥育形態等検討

農水省は13日、「農業技術の基本指針」(令和7年6月)を公表した。同省では、都道府県をはじめとする関係機関における農業技術関連施策の参考となるよう、食料安全保障、環境対策、生産性向上などの農政の重要課題に即した技術的な対応や、農業の発展に資すると期待される新技術を取りまとめ、毎年公表している。今回は、4月11日に閣議決定された「食料・農業・農村基本計画」に合わせて全体構成を変更、「不測時における食料供給の確保」「品種のグローバル展開」などの新たな項目を追加。同月に策定された「家畜及び鶏の改良増殖目標」に合わせて記載を更新している。

内容は大きく次の三つ、①農政の重要課題に即した技術的対応の基本方向②営農類型別の技術的対応の方向③その他、特に留意すべき技術的事項等—に分かれている。①のうち「不測時における食料供給の確保」では、ことし4月から施行された「食料供給困難事態対策法」において、不測時において本法に基づく供給確保の対象となる食料(特定食料)に米、小麦、大豆などのほか牛肉・豚肉・鶏肉、鶏卵が対象となっていることを説明している。

②のうち「肉用牛生産」では、肉用牛の改良に向けて、産肉能力については、品種特性に応じた適度な脂肪交雑の肉用牛生産により多様な消費者ニーズの高まりに対応する観点から、飼料利用性も考慮した日齢枝肉重量や歩留まり基準値など肉量に関する形質や、MUFAなどの脂肪の質をはじめとする食味の向上に重点を置いた種雄牛および繁殖雌牛の選抜・利用を推進。また、牛肉の食味や脂肪交雑の形状に関する指標の研究を進め、それらを改良の指標として取り入れるための評価手法の検討を進める。繁殖性については、繁殖形質に関するデータ収集などを推進するとともに、これまでに収集されたデータによる遺伝的能力評価に基づき、繁殖能力に優れ、生涯生産性の高い種畜の選抜に取り組むことにより、分娩間隔の短縮や性成熟を踏まえた初産月齢の適正化などを推進する—としている。

飼料利用性については、生産コストの低減を一層推進する観点から、直接検定における余剰飼料摂取量と肥育牛における飼料利用性との関連性なども含

め、飼料利用性に関する指標化の検討を引き続き進めるとともに、これまで蓄積されたデータを基に遺伝的能力評価に着手し、種畜の選抜手法の実用化を進める。遺伝的多様性の確保を図るため、食味、繁殖性、飼料利用性などに関係する新たな改良形質のデータ収集に取り組み、ゲノミック評価等を活用して、これらに着目した種雄牛の造成などの改良を推進する。肥育経営については、脂肪交雑の能力を生かす慣行肥育もブランド化などには引き続き有用である一方、肥育期間が長くなるほど飼料費等の生産コストが増加し、必ずしも収益性の向上にはつながらない場合もある。このため、個別の経営実態に鑑み、適正な月齢での肥育開始、肥育期間の短縮、適度な脂肪交雑での出荷を行う短期肥育・早期出荷も多様な肥育形態の一つとして検討し、必要に応じて取り組む—としている。

「養豚」では、種豚の改良を推進するとして、多様な消費者ニーズに対応する産肉能力の改良に向けて、国産豚肉全体の食味の向上を図るため、交配用の雄として主に利用されるデュロック種について、ロース芯への脂肪交雑の増進などにより食味の向上を図る。また、生産コストの低減を図るため、1腹当たり育成頭数の向上に着目した改良を推進する。さらに、繁殖能力および産肉能力を最大限に発揮させるため、強健で肢蹄が強く、発育に応じて体各部の均称がとれた体型への改良を図るとともに、肢蹄に関する評価指標の現場での実践に向け、判定の均一化・精度向上を図る。生産コストの低減を一層推進するため、肉質への影響も考慮しつつ、キメ細かな飼養管理による生産性向上に努めることにより、飼料要求率の向上を図る—としている。

衛生管理については、慢性疾病は生産性を阻害する大きな要因となっていることから、農場における疾病対策およびバイオセキュリティーの強化が極めて重要であるとし、飼養衛生管理基準の順守を徹底。グループ生産システム等を活用したオールイン・オールアウトの導入などの衛生対策を推進するものとする。薬剤耐性菌の増加は、疾病治療を困難にすることなどから、抗菌剤の慎重使用に取り組む—としている。

## 日本飼料工業会が通常総会、新会長に宮内和博氏選任

日本飼料工業会は17日、第69回通常総会を開催し、24年度事業報告、25年度事業計画などの上程議案を承認した。役員改選に伴い、庄司英洋会長(上写真)が退任。新会長に宮内和博氏(下写真)を選任した。

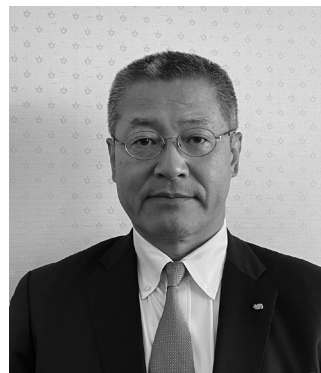
24年度事業報告のうち配合飼料の価格安定対策に関する事業では、25年度から通常補填基金を異常補填に活用する「特例措置」が導入されたことから、当面はこの仕組みの発動に備えて、関係する3基金がどのように通常補填基金への積み立てを行うかなどの運用が課題となる。同組合としては、この制度が最終的に、他の価格差補填制度と同様に、国と受益者が毎年度決められた積立単価にしたがって財源を積み立てることとし、ここの受益者ごとに行なう積立金の管理や補填金の支払い業務において配合飼料メーカーも支援する方式とすることが、生産者にとって公平であり、適切であるとのスタンスから、引き続き制度の抜本的改革に向けた議論に取り組んでいく必要があるとしている。

25年度事業計画のうち、飼料原料の共同購入事業として、国産飼料用米については、国の水田政策見直しの方向を注視しつつ、地域の生産者らと連携し利用推進に努めるとともに、共同買い付けに取り組む。配合飼料の価格安定対策に関する事業として、配合飼料価格安定制度が持続可能な制度となるよう、前年度に引き続きその抜本的改革に取り組む。その他、27年4月に同組合創立70周年を迎えることから、それに向けた準備を開始するとともに、内外の変

動する情勢を踏まえ、適時適切に対応する。

冒頭、庄司会長は「2024年度は、食料・農業・農村基本法が改正され、国産飼料用米生産に対する国の支援措置について今後の政策展開が大きな課題となった。配合飼料価格安定制度については、農水省主催の検討会で議論が行われ、最終的には本年度から特例補填の仕組みが新たに導入されることとなった。安全・安心で、高品質な国産畜産物を求める消費者の期待に応え、飼料、畜産業界全体の持続性が確保されるよう、本組合としては直面する課題に向き合い、わが国の畜産を力強く支えていきたい」と述べた。

宮内新会長は「昨今は、米国の貿易政策をめぐる日米交渉の行方など、内外ともに不確実な要素や課題が山積している。そうした中であっても、われわれ飼料業界は安全で質の高い飼料を安定的に供給することを通じて、わが国畜産業の発展に寄与し、畜産生産者はもとより、消費者からも信頼が得られるよう、組合員一同まい進していきたい」とコメントした。



## 【肉類通関速報・5月】計26万2441tで前年比3・3%減

財務省が18日に公表した5月の貿易統計速報によると、肉類の輸入通関量は合計26万2441t(前年同月比3・3%減)と前年同月を下回った。米国からの肉類輸入量は5万1764t(12・1%減)と減少し、EUは3万870t(6・4%減)となった。また、アジアからは6万509t(7・6%増)と増加し、そのうち中国は1万7700t(8・8%増)、韓国は106t(1・9%増)、ASEANは4万2693t(7・2%増)となった。

肉類通関速報 (単位：トン、%)

	数量	伸び率
米国	51,764	-12.1
EU	30,870	-6.4
アジア	60,509	7.6
中国	17,700	8.8
大韓民国	106	1.9
ASEAN	42,693	7.2
肉類計	262,441	-3.3

## 6月の食品価格動向調査、国産牛肉は13円安、輸入牛肉は前月並み

農水省大臣官房政策課食料安全保障室はこのほど、6月(9～11日)の「食品価格動向調査」(食肉・鶏卵)の調査結果を公表した。同調査は各都道府県10店舗(全国470店舗)について訪問調査を実施。価格は特売価格などを含まない消費税込み価格で、全調査店舗の単純平均となっている。

調査によると、国産牛肉(冷蔵ロース・100g)の

全国平均小売価格は811円で前月比13円安、輸入牛肉(冷蔵ロース・100g)は390円で前月並みだった。豚肉(ロース・100g)は274円で1円安、鶏肉(モモ肉・100g)は148円と4円高となった。また、平年比では国産牛肉が1%安、輸入牛肉が21%高、豚肉が5%高、鶏肉が13%高となった。

大臣官房政策課食料安全保障室「食品価格動向調査(食肉・鶏卵)」による全国平均小売価格

(単位:円/100g、鶏卵は円/1パック)

調査期間	輸入牛肉 (冷蔵ロース)	国産牛肉 (冷蔵ロース)	豚肉 (ロース)	鶏肉 (モモ肉)	鶏卵 (サイズ混合・10個入)
令和6年6月 (6/9～6/11)	390	811	274	148	301
令和6年5月 (5/12～5/14)	390	824	275	144	297
令和6年4月 (4/7～4/9)	389	821	274	143	294
令和6年3月 (3/10～3/12)	394	822	275	144	286

注1:各都道府県10店舗(全国470店舗)について訪問調査。2:価格は特売価格等を含まない消費税込み価格で、全調査店舗の単純平均である。3:令和元年7月以降より、鶏卵の調査規格を「サイズ混合」に変更。

## 日本ハムが第9回食育活動表彰で農水大臣賞受賞

日本ハムは、第9回食育活動表彰教育関係者・事業者部門「企業の部」において、最高位である「農林水産大臣賞」を受賞。7日に「第20回食育推進全国大会 inTOKUSHIMA」内で表彰式が行われた。

ニッポンハムグループは、「生命(いのち)の恵み」を大切に、約20年にわたり食育活動を行っている。

今回の受賞は、①子どもからシニア層まで幅広い世代を対象に、目的に合わせた食育を行ってきた点②誰もが食事を楽しめるよう、食の大切さを継続訴求してきた点③情報発信ツールのデジタル化など時代の流れに即して工夫を重ねてきた点が、農水省の掲げる食育重点テーマと合致し、評価されたもの。

今回の受賞に際し、同社は「われわれの事業は、家畜の生命を育むことから始まっている。自然の中で育まれる生命の恵みに感謝すること、そしてその大切さをきちんと伝えていくことは、『食』に携わる企業の



使命でもあると考える。われわれはさまざまな食育活動を通して、『正しく食べること』『食べることを楽しむこと』『食べものを大切にすること』をお伝えしている。ニッポンハムグループは、おいしさの感動と健康の喜びを世界の人々と分かち合うために、笑顔あふれる食体験の提供に今後も取り組んでいく」としている。

## 丸大食品が JOC および JPC とオフィシャルサポーターシップ契約を締結

丸大食品はこのほど、公益財団法人日本オリンピック委員会(JOC)および公益財団法人日本パラリンピック協会日本パラリンピック委員会(JPC)と、「TEAM JAPAN パートナーシッププログラム 2025-2028」において、TEAM JAPAN オフィシャルサポーターシップ契約を締結した(契約期間=契約締結日~2028年12月31日)

同社は1986年からハム・ソーセージなどを通じてJOCに協賛し、JOCを支援する企業の中でも最も古い歴史を持つ企業として、長きにわたり日本のスポーツ振興をサポートしてきた。「食を通じて人と社会に貢献する企業」として、安全・安心でおいしい食品を提供するだけでなく、多様な価値観が尊重され、誰もが活躍できる社会の実現に向け、大きな夢と希望を届け、笑顔あふれる、より良い未来を築くため、オリンピック各大会で「TEAM JAPAN」を応援するさまざまなコミュニケーション活動を行ってきた。

また、JPCとの契約を通じて、スポーツを起点とした社会貢献活動にも力を入れていく。多様な価値観が尊重され、誰もが活躍できる社会の実現に向け、DEI(ダイバーシティ・エクイティ・インクルージョン)の取り組みもさらに推進していく。

今回の契約締結に当たり、同社は「オリンピック・パラリンピック日本代表選手団『TEAM JAPAN』の成長と最高のパフォーマンスを支えることで、人々に大きな夢と希望を届け、笑顔あふれる、より良い未来を築いていく」とコメントしている。

「TEAM JAPAN パートナーシッププログラム」とは、TEAM JAPANブランドを中心にJOCとJPCのさまざまな権利を提供し、選手強化やオリンピック・ムーブメント事業などでの相互メリットをパートナー企業と構築。その対価として、資金や専門的なノウハウ・製品提供などの形でTEAM JAPANおよびJOCをサポートするもの。権利の活用を通して、パートナー企業のマーケティングやブランディング、インナーコミュニケーション、事業活用などに活用する。

25年から新たにスタートした「TEAM JAPAN パートナーシッププログラム」は、これまでJOCとJPCがそれぞれ販売していたマーケティングプログラムを、両団体が連携して展開。JOCとJPCがマーケティングプログラムで連携することで、オリンピック日本代表とパラリンピック日本代表がそれぞれ持つ価値を最大化し、パートナー各社と共に、スポーツの価値をより広く社会に届けることを目指す。

## 農畜産業振興機構、食肉販売動向調査⑤「量販店と専門店の実績」

24年度下半期の量販店における食肉取扱割合の実績(重量ベース)は、牛肉が25・2%、豚肉が43・8%、鶏肉が31・0%となった。食肉取扱実績(重量ベース)に占める和牛の割合は10・2%だった。前期(24年度上半期)と比較すると、鶏肉が1・1ポイント、豚肉が0・7ポイントそれぞれ増加した一方、牛肉が1・8ポイント減少したものの、おおむね同傾向となった。なお、牛肉のうち、和牛は0・8ポイント増加した一方、交雑牛は0・2ポイント、乳用牛は0・7ポイント、輸入牛肉は1・8ポイント減少した。

和牛と国産豚肉は前々回調査(23年度下半期)から増加傾向で推移した一方、輸入牛肉と輸入豚肉は減少傾向で推移した。

24年度下半期の食肉専門店における食肉取扱割

合の実績(重量ベース)は、牛肉が43・9%、豚肉が34・5%、鶏肉が21・6%となった。食肉取扱実績に占める和牛の割合は29・2%だった。食肉専門店では、量販店と比べて牛肉、特に和牛の取扱割合が高いことがうかがえる。前期(24年度上半期)と比較すると、鶏肉が0・7ポイント増加した一方、牛肉が0・6ポイント、豚肉が0・1ポイントそれぞれ減少したものの、1ポイント以内の増減にとどまり、おおむね同傾向となった。なお、牛肉のうち、和牛は1・0ポイント増加した一方、交雑牛は0・7ポイント、乳用牛は0・3ポイント、輸入牛肉は0・7ポイント減少した。

和牛、国産および輸入鶏肉は前々回調査(23年度下半期)から増加傾向で推移した一方、交雑牛と乳用牛は減少傾向で推移した。(連載続く)

## 神戸食肉青年会が月例会 岸本七江会長が退任し竹中慶子副会長が会長就任内定

神戸食肉青年会(岸本七江会長=写真右)は16日、神戸市垂水区の「かんてき 西村家」で月例会を開催。理事会を兼ねて行われた会合では岸本会長が辞任を発表し、それに伴い竹中慶子副会長(同左)が会長に就任することが承認された。正式承認は10月に開催される総会で決定する予定。

冒頭、岸本会長は「新入会員が徐々に増えてきたところではあるが、親組合との人員の絡みもあって退任することとなった。正式には総会での承認をいただいてからということになるが、併せて定款の見直しも行い、定年を55歳に変更する。もちろん、後継する竹中慶子さんのバックアップは行っていきたいし、さまざまな形で協力していきたい」とあいさつ。

竹中氏も「経験不足で助けられながら進めていくことになると思うが、引き続き皆さんのご支援・ご協力をお願いしたい」とあいさつした。月例会は先般入会



した(株)西村ミートショップ(西村裕一郎代表)の西村信一郎氏が働く「西村家」に併設される飲食店「かんてき 西村家」で開催。誕生日を数日後に控えた西村氏の誕生日を祝うとともに、今後の会の在り方や具体的な活動方法、全国団体との関わりなどについて活発に意見が交換された。

## 杉本本店、大阪・関西万博「宴」に期間限定で登場

和牛生販大手の杉本本店グループ(本社=熊本県宇城市、杉本光士郎社長)は6月16日から18日までの3日間、大阪市で開催中の2025年大阪・関西万博のORA外食パビリオン「宴~UTAGE~」内(グルメ杵屋ブース)に出席し、来場者に自社ブランド和牛「黒樺牛」をPRした。

会場は大阪木津市場(開設者=グルメ杵屋)が復興庁と連携して運営する「小型体験ブース」内。自然災害で被災した産地の「食」とその復興の取り組みなどをテーマに6月14日から約4カ月間、さまざまな国内の生産者らが原則、週替わりで登場する。杉本本店は同企画のオープニングを飾る初回出展者で、会場では1日に複数回、同社担当者が熊本地震や同県南部の水害を乗り越えてきたブランドの歩みや飼育管理へのこだわり、同社が力を注ぐハラール認証の取り組みなどについて解説。各セッションの後半では来場者を前にステーキの焼き方実演を披露し、その後、試食用として一口サイズにカットした「黒樺牛」リブローズを来場者に振る舞った。



また同パビリオン1階では飲食事業などを展開するアセットフロンティア(東京都港区)が期間中、「黒樺牛」を使ったハラール和牛ラーメンなど軽食類のテイクアウト専門店も出店。会場内では「黒樺牛」の豊潤な味わいを手軽に楽しむことができる。



## 中国・上海で国際肉類大会開催、業界関係者が食肉輸出状況など講演

中国有数の総合食品展覧会であるSIAL・上海(フランスの展示ビジネス会社主催)が5月に開催され、初日には併設イベントとして国際肉類大会が開催された。同大会では、協賛のウルグアイ食肉協会(INAC)による同国の肉類生産・輸出状況の紹介、中国食品土畜輸出入商会(農畜産物の輸出入団体)による食肉貿易についての講演などのほか、ブラジル動物性タンパク質協会(ABPA)、米国やニュージーランド産食肉(牛肉・羊肉)の生産・輸出・販売業者らによる円卓対話が行われた。中国食品土畜輸出入商会の講演概要は次の通り。

牛肉生産量をみると、2023年は753万t、24年も速報値では779万tと増加しており、牛(肉用牛および乳用牛)の飼養頭数は高い水準にあるようにみえるかも知れないが、実は23年以降は減少している。24年末の飼養頭数は23年末から462万頭減少した結果、1億47万頭となったが、その後も減り続け、25年第1四半期末では9762万頭にまで減少した。繁殖雌牛頭数も同じく減少傾向にあり、今後の牛肉生産量は減少見込みである。牛肉生産量の減少が国内の牛肉取引価格に反映されるのは早くも今年の秋である。秋といえば(中央政府が行っている)セーフガード調査の結果がみえてくる頃であるが、そのことを脇に置いて秋の価格動向は一つの注目点である。

また、流通の末端の小売・飲食業界関係者は、生産地から近いなどの理由により北京や上海のような1線都市よりも利益幅が大きい2線都市、3線都市のビジネスをよく検討すべきである。加工品にもまだ工夫の余地がある。特に牛肉の加工品はまだ定番といえるものがない。牛肉としてブランド化しているアンガス牛について、低価格の部位を使って薄いビーフジャーキーを老人向けに開発し、「老人でも牛肉が食べられる」とうたって販売している会社があるが、良い発想だと思う。今売れる商品は「四つの原則」①おいしいこと②栄養価が高いこと③コストパフォーマンスが良いこと④商品としての「緯度」が良い(従前の商品とは異なる視点を持っている)ことを満たすものである。ぜひこのような商品を開発してほしい。

円卓対話参加者のコメントの要旨は次の通り。

①ABPA首席＝ブラジルは24年、中国に130万t

の食肉を輸出した。これは過去最高の輸出量であり、25年第1四半期も高い水準で推移している。今後とも中国とは良好な関係を保ちたい。中国の関係業者と競争するのではなく、すみ分けの中で貿易をしていきたいということである。われわれは中国の食肉加工業界に原材料を提供する立場として協力していく。1線都市以外にもブラジル産食肉の認知向上に取り組みたいと考えており、最近では、杭州市で合計19回に及ぶ「肉の旅」と銘打った消費促進のためのイベントを行った。これからもこのようなブラジル産食肉の認知向上に向けた活動を行っていきたい

②CLB(米国食肉生産・輸出・販売会社)首席マーケット担当官＝当社の取り扱う食肉は米国国内向けが85%、輸出向けが15%であり、この15%には日本や韓国向けも含み、中国は第4位の輸出先である。現下の中米貿易環境の問題は、関税よりも輸出可能な施設の許可が失効したことであり、今後の動向に注目している。貿易リスクを低減していくために経営の多元性を進めている。多元化というのは、例えばアルゼンチンで食肉を生産し、それを中国に輸出するといったようなことを指し、このような工夫で中国市場における販売ルートを維持したいと考えている。また、中国国内での販売先もスーパーマーケットなどに限定するのではなく、これまで以上に消費者を対象としたBtoCビジネスを重視し、消費者に直接届けるようにしていきたい。「健康的な肉」としてのブランド認知も進めていきたい。

③Silver Fern Farms(NZ食肉生産・輸出・販売会社)中国エリア営業担当首席＝当社は、NZで牛肉、羊肉および鹿肉などの食肉を生産しており、中国に輸出されるNZ産食肉の3分の1を供給している。中国は現在貿易の多元化を進めており、高級・中級の食肉にとっては輸出のチャンスである。現在、中国の食肉市場は成長途上にあり、生産力は伸び、消費面でも電子商取引が非常に発達している。消費者も「高タンパク質」を求める傾向が増えているなどの変化がみられる。このような変化を背景として、当社では中国で「都市シリーズ」の提案を始めた。高タンパク質な朝食メニューなど1食分で必要とする栄養が満たせるというようなメニューを今後も展開する。

[資料] 都道府県別枝肉生産量 (令和7年4月)

年次・ 都道府県	豚	牛計	成牛							
			計	和牛			乳牛		牛	
				小計	雌	去勢	雄	小計	雌	去勢
全国 (1)	110,652.2	43,685.0	43,643.1	22,958.1	10,245.8	12,705.3	7.0	8,825.5	4,805.8	4,011.9
北海道 (2)	9,649.1	8,228.6	8,211.2	870.2	352.3	517.6	0.3	5,279.7	2,463.1	2,814.3
青森 (3)	7,019.0	1,196.3	1,196.3	371.9	153.8	218.1	-	317.0	37.7	279.0
岩手 (4)	2,417.5	652.1	651.8	433.6	194.1	238.5	1.0	62.4	54.1	8.3
宮城 (5)	2,533.8	660.3	660.1	507.6	243.1	264.6	-	87.0	81.7	5.3
秋田 (6)	2,148.2	178.3	178.3	161.2	38.6	122.6	-	1.1	0.6	0.4
山形 (7)	2,593.5	722.0	722.0	607.9	467.5	140.4	-	8.7	8.7	-
福島 (8)	1,495.0	138.2	138.2	120.6	71.9	48.0	0.7	10.1	9.7	0.4
茨城 (9)	7,351.0	1,616.7	1,608.8	542.0	206.7	335.0	0.3	551.3	483.3	68.0
栃木 (10)	2,767.9	470.1	468.9	169.6	108.8	60.5	0.3	121.3	106.8	14.5
群馬 (11)	4,678.4	731.9	731.8	187.7	54.2	133.6	-	26.9	5.8	21.1
埼玉 (12)	3,925.9	1,357.8	1,357.1	441.1	198.5	242.6	-	335.4	307.3	28.1
千葉 (13)	5,942.8	1,005.9	998.3	186.0	95.8	88.2	2.1	247.1	198.6	44.3
東京 (14)	1,606.3	4,013.7	4,013.7	3,121.6	1,210.2	1,911.4	-	16.4	0.6	15.8
神奈川 (15)	3,761.5	734.1	734.1	406.7	182.9	223.9	-	45.1	36.4	8.8
新潟 (16)	2,802.8	101.7	100.1	58.8	21.2	37.6	-	8.7	5.8	2.6
富山 (17)	621.0	47.3	47.3	28.5	6.1	22.4	-	1.6	0.3	1.3
石川 (18)	216.4	216.3	216.3	105.8	46.4	59.5	-	38.2	27.7	10.5
福井 (19)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨 (20)	249.7	195.9	195.9	114.6	67.2	47.5	-	31.5	31.5	-
長野 (21)	788.8	226.1	226.1	115.2	46.4	68.9	-	27.4	27.4	-
岐阜 (22)	621.9	680.8	680.6	513.5	147.8	365.8	-	57.1	50.5	6.6
静岡 (23)	1,257.3	326.9	326.7	93.8	62.0	31.8	-	19.6	19.6	-
愛知 (24)	3,869.7	714.8	714.3	227.3	118.7	108.5	-	49.5	20.6	29.0
三重 (25)	1,112.4	318.1	317.8	241.1	229.6	11.5	-	48.2	44.7	3.5
滋賀 (26)	-	374.0	374.0	297.4	230.1	67.3	-	1.2	0.3	0.9
京都 (27)	140.8	647.4	647.4	528.4	289.4	239.0	-	0.6	0.6	-
大阪 (28)	163.1	1,074.5	1,074.5	506.7	224.4	282.3	-	97.6	10.3	87.3
兵庫 (29)	691.9	2,691.6	2,690.3	2,005.4	1,143.9	861.5	-	222.8	121.0	101.8
奈良 (30)	63.0	105.9	105.9	55.5	50.3	5.2	-	39.1	18.0	21.1
和歌山 (31)	-	15.6	15.6	6.3	4.8	1.6	-	-	-	-
鳥取 (32)	476.0	195.1	195.1	91.4	35.5	55.8	-	72.0	15.4	56.6
島根 (33)	602.6	136.8	136.8	90.7	32.9	57.4	0.3	15.7	14.8	0.9
岡山 (34)	453.9	282.2	282.2	113.8	68.9	44.9	-	110.0	78.8	31.1
広島 (35)	363.7	780.0	779.8	226.7	93.2	133.6	-	156.6	96.5	60.1
山口 (36)	-	73.0	73.0	21.1	16.9	4.2	-	14.3	11.3	3.1
徳島 (37)	1,545.7	292.4	292.3	116.1	49.8	66.3	-	11.4	10.9	0.4
香川 (38)	1,050.4	895.4	895.4	218.6	61.5	157.1	-	110.5	23.2	87.3
愛媛 (39)	1,137.8	99.1	99.1	56.4	17.8	38.6	-	18.5	4.5	14.0
高知 (40)	662.0	121.8	121.8	67.1	29.0	38.1	-	5.8	5.8	-
福岡 (41)	1,482.3	2,253.0	2,253.0	1,691.9	805.5	886.0	0.3	109.6	79.8	29.8
佐賀 (42)	518.7	219.6	219.6	211.4	78.9	132.5	-	4.2	4.2	-
長崎 (43)	3,853.9	785.7	785.7	537.7	200.6	337.1	-	115.9	39.3	76.3
熊本 (44)	1,081.3	1,327.6	1,327.4	874.0	375.7	498.3	-	156.6	140.9	15.4
大分 (45)	935.8	292.6	292.6	216.4	77.1	139.3	-	24.5	13.5	11.0
宮崎 (46)	6,721.9	2,206.5	2,205.7	1,529.1	660.8	868.3	-	75.8	24.5	51.3
鹿児島 (47)	17,137.4	4,093.1	4,092.2	3,693.9	1,299.0	2,393.5	1.4	63.2	61.5	1.8
沖縄 (48)	2,140.0	188.1	188.0	175.4	76.3	99.1	-	8.0	8.0	-

資料:農林水産省「畜産物流通統計」

(単位：頭)

乳牛	成牛								子牛	馬	枝肉生産量
	交雑牛				その他の牛						
雄	小計	雌	去勢	雄	小計	雌	去勢	雄			
7.8	11,837.2	5,147.2	6,689.1	0.9	22.4	5.2	13.2	3.9	41.9	382.3	154,719.5
2.4	2,058.0	680.0	1,377.5	0.5	3.1	0.6	2.1	0.4	17.5	1.3	17,879.0
0.3	507.4	226.5	280.9	-	-	-	-	-	-	31.3	8,246.6
-	155.4	49.5	105.9	-	0.4	-	0.4	-	0.3	-	3,069.6
-	65.5	21.6	43.9	-	-	-	-	-	0.2	-	3,194.1
-	16.0	12.7	3.3	-	-	-	-	-	-	4.7	2,331.2
-	105.5	35.8	69.7	-	-	-	-	-	-	13.3	3,328.8
-	7.5	6.4	1.1	-	-	-	-	-	-	93.9	1,727.1
-	515.4	196.1	319.3	-	-	-	-	-	8.0	0.4	8,968.1
-	177.9	53.0	124.5	0.5	-	-	-	-	1.2	-	3,238.0
-	517.2	310.4	206.8	-	-	-	-	-	0.1	1.3	5,411.6
-	580.0	230.0	350.0	-	0.7	0.3	0.4	-	0.7	-	5,283.8
4.2	564.9	329.0	235.9	-	0.3	0.3	-	-	7.6	0.4	6,949.1
-	875.7	367.7	508.0	-	-	-	-	-	-	-	5,620.0
-	281.9	184.8	97.1	-	0.3	0.3	-	-	-	-	4,495.6
0.3	32.6	11.8	20.8	-	-	-	-	-	1.5	-	2,904.5
-	16.7	6.9	9.9	-	0.4	-	-	-	0.4	-	668.3
-	72.2	52.5	19.7	-	-	-	-	-	-	-	432.6
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
-	49.8	47.6	2.2	-	-	-	-	-	-	26.1	471.8
-	83.5	49.5	34.0	-	-	-	-	-	-	1.3	1,016.2
-	110.0	25.5	84.5	-	-	-	-	-	0.2	6.0	1,308.7
-	213.3	98.1	115.2	-	-	-	-	-	0.2	-	1,584.2
-	437.5	209.8	227.7	-	-	-	-	-	0.5	-	4,584.5
-	28.4	24.0	4.4	-	-	-	-	-	0.3	-	1,430.5
-	75.4	16.2	59.2	-	-	-	-	-	-	-	374.0
-	118.2	90.2	28.0	-	0.1	-	0.1	-	-	-	788.2
-	470.2	193.7	276.5	-	-	-	-	-	-	-	1,237.6
-	461.4	281.4	179.9	-	0.7	0.3	-	0.4	1.3	-	3,383.5
-	11.3	6.4	4.9	-	-	-	-	-	-	0.4	169.3
-	9.3	9.3	-	-	-	-	-	-	-	-	15.6
-	31.7	15.2	16.5	-	-	-	-	-	-	-	671.1
-	30.5	11.3	19.2	-	-	-	-	-	-	-	739.4
-	58.5	34.3	24.1	-	-	-	-	-	-	-	736.1
-	396.5	204.5	192.0	-	-	-	-	-	0.2	-	1,143.8
-	36.6	33.8	2.7	-	1.1	0.9	0.1	-	-	-	73.0
-	164.8	7.4	157.4	-	-	-	-	-	0.1	3.4	1,841.5
-	566.3	238.8	327.5	-	-	-	-	-	-	-	1,945.8
-	24.1	9.3	14.8	-	-	-	-	-	-	-	1,236.9
-	48.9	8.8	40.0	-	-	-	-	-	-	2.6	786.4
-	450.5	137.8	312.7	-	1.1	0.9	0.1	-	-	48.9	3,784.2
-	4.0	3.4	0.5	-	-	-	-	-	-	-	738.3
0.3	132.1	70.1	62.0	-	-	-	-	-	-	-	4,639.6
0.3	285.8	88.3	197.5	-	11.0	0.6	9.6	0.9	0.2	146.6	2,555.5
-	51.4	33.8	17.6	-	0.3	0.3	-	-	-	-	1,228.4
-	600.5	287.8	312.7	-	0.3	0.3	-	-	0.8	-	8,928.4
-	335.0	135.3	199.7	-	-	-	-	-	0.9	-	21,230.5
-	2.1	1.0	1.1	-	2.4	0.3	0.4	1.7	0.1	0.4	2,328.5

# 東京・大阪枝肉相場、全国と畜頭数

[東京食肉卸売市場] 6月18日  
枝肉卸売価格(瑕疵除く)(頭、1kg当たり円、税込み)

◇牛生体		5	4	3	2	1	
和牛	雌 A	高値	3,443	2,264	1,945	-	-
		安値	2,055	2,026	1,790	-	-
		平均	2,466	2,103	1,908	1,231	-
		頭数	62	28	6	1	-
	97頭	高値	-	-	-	-	-
		安値	-	-	-	-	-
		平均	-	-	-	1,547	-
		頭数	-	-	-	1	-
	雌 B	高値	-	-	-	-	-
		安値	-	-	-	-	-
		平均	-	-	-	-	-
		頭数	-	-	-	-	-
1頭	高値	-	-	-	-	-	
	安値	-	-	-	-	-	
	平均	-	-	-	1,196	-	
	頭数	-	-	-	1	-	
去 A	高値	3,618	2,196	2,025	-	-	
	安値	2,050	1,938	1,855	-	-	
	平均	2,420	2,085	1,927	-	-	
	頭数	119	34	4	-	-	
157頭	高値	-	-	-	-	-	
	安値	-	-	-	-	-	
	平均	-	-	-	-	-	
	頭数	-	-	-	-	-	
去 B	高値	-	-	-	-	-	
	安値	-	-	-	-	-	
	平均	-	-	-	-	-	
	頭数	-	-	-	-	-	
1頭	高値	-	-	-	-	-	
	安値	-	-	-	-	-	
	平均	-	-	-	-	-	
	頭数	-	-	-	-	-	
乳牛	雌 B -頭	平均	-	-	-	-	
	雌 C -頭	平均	-	-	-	-	
	去 B -頭	平均	-	-	-	-	
	去 C -頭	平均	-	-	-	-	
交雑牛	雌 B	平均	-	1,531	1,512	1,405	-
		頭数	-	2	7	7	-
	雌 C	平均	-	1,527	-	1,385	-
		頭数	-	1	-	1	-
	去 B	平均	1,728	1,653	1,583	1,439	-
		頭数	1	6	19	8	-
	去 C	平均	-	1,385	-	1,336	-
		頭数	-	1	-	1	-

	牛	豚	搬入牛	搬入豚	その他
と畜	388	813	-	(競り) (対)	
売買	397	634	179.5	-	78

◇牛搬入		5	4	3	2	1
和 雌	A	2,326	1,677	1,498	1,397	-
	B	-	1,566	-	1,409	1,290
和 去	A	2,451	-	-	-	-
	B	-	-	-	-	-
乳 雌	B	-	-	-	-	1,055
	C	-	-	-	1,053	1,018
乳 去	B	-	-	-	-	-
	C	-	-	-	-	-
交 雌	B	1,683	1,665	1,477	1,362	-
	C	-	-	-	-	-
交 去	B	1,943	1,660	1,579	1,405	-
	C	-	-	1,533	-	-

◇豚		[極上]	[上]	[中]	[並]	[等外]
生体	高値	822	908	814	799	761
	安値	811	745	713	464	356
	平均	816	773	752	709	502
	頭数	( 3)	( 179)	( 234)	( 112)	( 106)
搬入競り	高値	-	-	-	-	-
	安値	-	-	-	-	-
	頭数	( -)	( -)	( -)	( -)	( -)
搬入相対	高値	-	-	-	-	-
	安値	-	-	-	-	-
	頭数	( -)	( -)	( -)	( -)	( -)

[大阪食肉卸売市場] 6月18日  
枝肉卸売価格(生体)(1kg当たり円、税込み) [ ] は豚規格

	5 [極上]	4 [上]	3 [中]	2 [並]	1 [等外]
和 雌 A	2,360	2,046	1,926	-	-
(頭数)	( 8)	( 3)	( 2)	( -)	( -)
B	-	-	-	-	-
(頭数)	( -)	( -)	( -)	( -)	( -)
和 去 A	2,422	2,043	2,064	-	-
(頭数)	( 16)	( 5)	( 2)	( -)	( -)
B	-	-	-	-	-
(頭数)	( -)	( -)	( -)	( -)	( -)
乳 去 B	-	-	-	-	-
交雑雌 B	-	-	1,593	-	-
C	-	-	-	1,521	-
交雑去 B	-	1,680	1,648	-	-
C	-	-	1,610	1,475	-
豚	-	768	752	639	480

[全国と畜概算頭数]  
農水省統計部発表 (頭)

	6月18日	6月17日	(6月累計)
豚	54,000	63,100	766,200
成牛計	4,400	4,130	52,230
和牛雌	1,370	1,000	13,730
和牛去勢	1,140	1,090	14,180
乳牛雌	580	670	6,950
乳牛去勢	390	580	5,390
交雑雌	440	410	5,090
交雑去	470	380	6,840

[去勢牛 B3・2 規格 枝肉取引価格] 6月18日

	1,520円	(前日 1,457円)
東京		
	1,649円	(前日 1,422円)
大阪		

[豚・全農建値] 6月18日

上	中	取引頭数	市況
772円	754円	1,121頭	弱もちあい

と畜	牛 93頭	豚 83頭	牛概況	下押し
売買	牛 49頭	豚 124頭	豚概況	まちまち

# 各地の豚枝肉、豚部分肉、食鳥相場

[主要市場豚枝肉卸売価格] 6月18日 (1kg当たり円、税込み)

	上加重 (前日)	中加重 (前日)	と畜	上場	市況
北海道 [セ]	724 (724)	- (-)	5,897	-	もちあい
仙台 [中]	760 (741)	438 (664)	569	9	続伸
栃木 [地]	794 (-)	773 (-)	1,417	81	続落
茨城 [地]	779 (779)	753 (756)	1,145	466	もちあい
群馬 [地]	762 (770)	677 (696)	1,709	206	小反落
さいたま [中]	763 (777)	759 (762)	142	141	反落
東京 [中]	773 (767)	752 (749)	813	634	小幅上伸
横浜 [中]	781 (782)	752 (753)	605	598	もちあい
山梨 [地]	777 (846)	756 (800)	143	102	下押し
浜松 [地]	- (-)	- (-)	-	-	競り休止
名古屋 [中]	814 (805)	778 (770)	855	156	続伸
京都 [中]	- (805)	- (744)	-	-	休市
大阪 [中]	768 (-)	752 (739)	83	110	まちまち
神戸 [中]	- (868)	- (857)	125	-	上場なし
岡山 [地]	736 (735)	676 (722)	244	271	もちあい
広島 [中]	764 (770)	735 (740)	147	108	下押し
福岡 [中]	746 (745)	712 (711)	300	133	もちあい

注：北海道はホクレン大卸売価格で、前日の全道と畜頭数。

[日本食肉流通センター] 6月11日～6月17日  
豚カット肉 [I] (1kg当たり円、税込み、重量kg)

◇首都圏 総重量 1,582,537 kg

	第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み平均値	取引重量
肩ロース	1,207	1,338	1,390	1,328	63,666
うで	842	920	951	915	127,975
ロース	1,145	1,242	1,334	1,250	137,934
ばら	1,271	1,326	1,393	1,331	158,824
もも	832	886	948	889	171,325
ヒレ	1,145	1,213	1,274	1,203	12,624
セット	1,074	1,113	1,172	1,112	910,189

◇近畿圏 総重量 715,501 kg

	第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み平均値	取引重量
肩ロース	1,242	1,381	1,486	1,379	60,213
うで	810	867	903	869	109,534
ロース	1,188	1,284	1,320	1,278	91,905
ばら	1,300	1,334	1,372	1,339	129,923
もも	850	867	960	888	161,711
ヒレ	1,255	1,361	1,406	1,349	10,984
セット	1,042	1,167	1,255	1,169	151,231

[食鳥正肉日経相場] 6月17日  
荷受売値平均値 (kg当たり円、税抜き)

◇東京 (8社)

	安値	加重平均	高値	販売量 (t)
モモ	753	832	1,002	151
ムネ	483	531	680	165

◇大阪 (2社)

	安値	加重平均	高値	販売量 (t)
モモ	740	822	1,030	3
ムネ	461	517	596	3

[農水省統計情報部食鳥市況] 6月17日  
kg当たり円、税抜き

	モモ肉	ムネ肉	手羽ト	手羽キ	ササミ
高値					
安値					
平均					

17日分は20日掲載

※日本食肉流通センター：①数値はすべて記載日中間(1週間分)に収集した累積データをもとに算定しており、直近1週間の状況を示している。②重量ベースでみた価格の分布。代表値は「重量中央値」であり、参考値として「第1四分位値」「第3四分位値」「刈込み平均値」を算定。③収集した取引価格データ(単価・重量)を単価の低いものから順に並べ替えた上で取引重量を累積し、総取引重量のちょうど50%に位置する単価を「重量中央値」。最低価格から順に累積したデータを4等分し、最初の境界に位置する単価を「第1四分位値」3番目の境界に位置する単価を「第3四分位値」という。「刈込み平均値」は、第1四分位と第3四分位の間の重量ベースの平均値(加重平均値)。

食肉業界紙のパイオニア

# 食肉通信の 専門紙・誌と本

食肉業界のあらゆる情報を迅速・正確に伝えるべく、日刊、週刊、月刊の3紙を定期発行。食肉関連の情報を網羅した週刊「食肉通信」、日々のニュース速報に特化した日刊「食肉速報」、市場分析などテーマ性の高い情報を詳細に掘り下げる月刊「ミート・ジャーナル」を基幹媒体として、食肉に関する専門書籍を多数発行しております。

### ■業界動向がデータでわかる 数字でみる食肉産業

生産から流通、販売まで関連分野のデータを集積。B5判。年1回発行。

B5判 472頁 4,191円(送料別)

### ■畜産・食肉業界の動向大全 日本食肉年鑑

現状分析と将来の展望、戦略構築に必携の一冊。関係名簿、畜産・食肉需給の動向、食肉流通の動向、食肉加工品関係の売れ筋動向なども収録。年1回発行。

B5判 500頁 14,850円(送料別)

### ◆食肉販売&経営関連

## 銘柄牛肉 ガイドブック

隔年刊。全国の銘柄牛肉の品種、飼養管理の方法、生産・出荷の実施主体、食肉処理と出荷・販売先、飼養頭数、ブランドの特徴など最新データを満載。

B5判 240頁 定価2,200円(送料別)

## 銘柄豚肉 ガイドブック

隔年刊。全国の銘柄豚肉の品種、飼養管理の方法、生産・出荷の実施主体、食肉処理と出荷・販売先、飼養頭数、ブランドの特徴、輸出の状況など最新データを満載。

B5判 240頁 定価2,200円(送料別)

### ◆イベント

#### ■国内で唯一、 最大級の食肉総合見本市



## 食肉産業展

食のグローバル化が目覚ましい発展を遂げる中で、和牛に象徴される日本独自の食文化を守り今後の成長を促すため、多彩な素材食品、加工技術、販売手法、管理システムを一堂に集めて提案いたします。

(HP) <https://www.shokuniku-sangyoten.jp/>

## 週刊 食肉通信



食肉全般の行政、業界ニュースをはじめ、新製品や食肉店経営のページ、量販店・外食、食肉組合、食肉市場などのニュースのほか、週間・月間市況や全国の食肉市場の牛・豚肉相場、食鳥相場など、国内外の生産から商社、卸、小売まで広範な情報を掲載しています。わが国唯一の食肉専門紙。

発行は毎週火曜日、ブランク判8~12ページ、価格は年間25,000円(税・送料込)

## 日刊 食肉速報



食肉関連に関する行政、業界の動向をはじめ、国産(牛枝肉・部分肉、豚枝肉・部分肉、プロイラー)と輸入(米国産やカナダ産の牛肉・豚肉、豪州産牛肉など)の相場市況を毎日掲載するとともに、企業情報・企業倒産など日々の業界ニュースをお届けします。

発行は月曜日から金曜日、A4判14ページ、価格は年間82,080円(税・送料込) ※軽減税率対象

## 月刊 ミート・ジャーナル



食肉の流通チャネルが多様化する中で、その時々のもっとも話題性の高いテーマを多角的視野で捉え、現場をレポート・分析。あわせて食肉・食肉製品など総業の製造・流通・販売の現場ですぐに役立つ技術情報などを掲載する月刊専門誌。

発行は毎月月上旬、B5判120~150頁、価格は年間23,100円(税・送料込)

### ◆教材&レポート等

#### ■あなたの常識を強固にする 今さら聞けない肉の常識

平野正男 著  
鏡 晃 監

肉はなぜ赤いのか、しゃぶしゃぶがおいしい理由は?など66の常識をわかりやすく解説。

A5判 152頁 定価1,500円(送料別)

#### ■知識を豊かにする 食肉用語事典〈新改訂版〉

日本食肉研究会編 A5判 506頁 定価7,000円(送料別)

#### ■~食肉のプロフェッショナルを育てる~シリーズ

### 牛枝肉・牛部分肉の見方 牛肉の見方を簡単図解

牛枝肉・牛部分肉について、各方面のプロに幅広く取材し、「牛枝肉、牛部分肉のポイント」について分かりやすくまとめた待望の入門書。

B5判 90頁 定価3,000円(送料別)

### ◆ステーションナリー

## 食肉手帳 DIARY

毎年発行し好評をいただいている業界人必携の手帳がグレードアップ。機能性、食肉価格などの資料も充実し、日頃の業務をサポートします。名入れも可。

横9.4cm×縦14.5cm 定価990円 ※購入される冊数によって価格は変動します

お申し込みは電話かFAXで  
お近くの食肉通信社まで

# 株式会社 食肉通信社

■大阪 〒550-0005 大阪市西区西本町3-1-48

TEL 06(6538)5505 FAX 06(6538)5510

■東京 〒101-0021 東京都千代田区外神田2-14-10

TEL 03(6206)0929 FAX 03(6206)0928

■九州 〒812-0029 福岡市博多区古門戸町3-12

TEL 092(271)7816 FAX 092(291)2995

※東京事務所は2025年2月10日より上記の新住所に移転しました。電話・FAX番号も変更となりましたので、宜しくお願致します。